

日本のエーゲ海といわれる瀬戸内海国立公園日生諸島（ひなせしょとう） 「無人島の鴻島（こうじま）」探検ツアー

親しい友人達と無人島探検に行こうということになって「凍え死なないように重装備」で行きました。

岡山県日生港から船に乗って約 20 分で、鴻島に近付くと島の上にはいっぱい別荘が建っています。

「どこが無人島なんじゃい？」と思いました。

またまた、エーカゲン（エーゲ海とちゃう）な某会長と某専任幹事の策略か？そんな気持ちで、鴻島の小さな栈橋に着いて、お迎えのお泊り旅館の大野屋さんのご主人の軽四輪で、狭い道路ですごい急坂を「私の体重のためにバックして断崖を落ちるのではないかと心配するほど「ズルギュズルギュ——ズルズル」とタイヤを軋ませて、お泊りの大野屋さんに着きました。

さっそく大野屋のご主人に「無人島か？」と聞くと「300 以上の別荘があるが、持ち主も皆高齢化して、誰も来なくなっていて、ほとんどが空き家で、今この島にいるのは大野屋のご夫婦とご子息？だけなんだということで「大野屋さんから見たら無人島」なんです。「な～るほど」とへんに納得してしまいました。

そして、ぷりぷりの大きなクルマエビのうどんをいただいて、お互いが自己紹介しました。

これがまた、皆さん小説を 1 冊書ける位なが～いなが～いお話です。

それがまた、さすが出版社の代表にだまされて参加されただけに、話の内容がレベルが高く、経歴が面白く、話が上手で、一瞬に皆さんがお互いを理解し、長い知己のようにお互いを好きになりました。

そんなお互いを理解し合った仲間として、鴻島探検登山に出発しました。

頂上まで行ったら、これがまた私より一まわりも年上の先生方が、港まで下りようと言うんです。

私は「下るのはとても好きなんですが、上がるのはものすごく嫌いなんです」が、メンツもあるので下りました。「永遠に下り続けて欲しい」と念じていたのに海まで下りてしまったんです。「上がりたくない」と心で叫んだのですが、遭難してはいけないので上がりました。「ちゃ～んと上がれました」

そして、のんびり風呂に入って、地物の牡蠣や地どれの小魚をたっぷりいただいて、同行のメンバーさんと飲み続けて話を続けました。

話を始めるとさすが倫理に関心がある方ばかりで、知的レベルと経歴レベルの高い、話題の豊富な方の集まりです。ほんとうに楽しくて面白くてお互いに信頼と相思相愛を感じることができました。

歳をとっても、雑魚寝で泊って話を続けることはいいものだと、若かりし昔を思い出しました。

楽しい思い出写真

やはりエーゲ海だなあ



鴻島頂上 360度素晴らしい景色ですよ

日生諸島 国立公園だ~~~



無人の別荘を寂しく見つめるゴリラ



お料理の一部 すべての写真を載せられな~い



楽しいお話いっぱい夕食会

